

17 路上でよいコミュニケーションをとれることが、 よいドライバーの大事な条件	
題材設定の理由	生徒は、交通ルールやマナーの大切さは知っていても、事故にならなければよいとか、自分は大丈夫と自分本位に考えて行動しがちである。安全で円滑な交通を図るためには、生徒は交通参加者として、他者との良好なコミュニケーションをとる能力を身につける必要があると考え、本題材を設定した。
指導のねらい	1. 歩行者で混雑した道路を他の人と接触したり衝突しないで、円滑に歩行するには、ルールやマナーを大切に、他者とのコミュニケーションをとることの大切さを理解できるようにする。 2. 「座る位置の移動」のゲームを体験させ、ルールの大切さを理解できるようにする。
準備	・ワークシート(問題1,2)を人数分プリントしておく。 ・「座る位置の移動」のゲームを行うため、各班をチームとして参加させるが、その際、教室の机とイスを隅に移動できるように考えておく。 ・ストップウォッチ1個

段階時間	指導事項	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	●本時のねらいと内容 ●ワークシートの 利用方法	○本時のねらいと学習方法について説明を聞く。 ○ゲームが行われるので積極的に参加する。 ○ワークシートの利用方法について説明を聞く。	○ゲームの仕方やルールを理解させ班別にチームとして参加させる。 ○ゲームの際には机・イスを移動して、場所を設定する。
展開 (40分)	1. 人通りの多い道の安全な歩行の仕方  2. 「座る位置の移動」をスムーズに行うゲームによるコミュニケーションの方法	○人通りの多い道を他者とぶつからないように、安全に歩行する方法についてワークシート1と2の問題の解答を通して考え、適切なコミュニケーションがとれるようにする。 (1) 歩行者で混雑している中を、他者と接触したり衝突しないように歩行する。 (2) 他者の動きを読む。 (3) 自分の動きを他者に知らせる。 (4) 道を譲り合う。  ○班ごとにチームを組んで「座る位置の移動」のゲームをルールに従って行い(156ページ参照)、移動をスムーズに行うにはルールを守るとともに、他者の動きにも注意することが大切であることを実感する。 (1) 座席位置を、合図で他の席に素早く、他と接触しないで移動する。 (2) 移動のつど座席順を並び替えるが、混乱しないように移動する。 (3) スムーズな移動にはルールが必要であることを理解する。 (4) 他者との安全で円滑な交通を図るためにお互いの行動を理解しあうためのコミュニケーションが大事であることを理解する。	○人込みの中を日頃どのように気をつけて歩いているかについて2~3名の生徒に発表させ、適宜コメントする。 ○ワークシート2の解答を1~2名の生徒に発表させ、他の生徒と異なる回答を取り上げてコメントする。  ○ゲームのときには、机・イスを教室の隅に寄せて、使用するイスを所定の位置に置く。 ○このゲームの方法を全員に十分理解させておく。 ○スムーズに移動し、かつ短時間でできることがポイントであることを理解させておく。 ○スムーズに移動できなかったチームは、その原因について考えさせる。
まとめ (5分)	安全で円滑な交通を図るためには、ルールやマナーが大切であること	○安全で円滑な交通を図るために、お互いに交通ルールを守るとともに、譲り合いや助け合いの精神をもって行動するようにする。	○とくに車を運転する場合などでは、他者とのコミュニケーションを取りあって行動することの重要性を強調する。
評価	1. 路上ではよいコミュニケーションをとることの大切さが理解できたか。 2. 自分本位な行動の危険を知り、ルールやマナーを大切にしようとする態度が見られるか。		

## 路上でよいコミュニケーションをとれることが、 よいドライバーの大事な条件



### 問題 1

この人込みの交差点には若い人たちもたくさんいます。みんな他の人にぶつからないよう、他の人のじゃまをしないよう、上手に渡っています。どんなことに注意し、どんな対応をしながら渡っているか、考えてください。

路上でよいコミュニケーションをとれることが  
よいドライバーの大事な条件が

## 路上でよいコミュニケーションをとれることが、よいドライバーの大事な条件

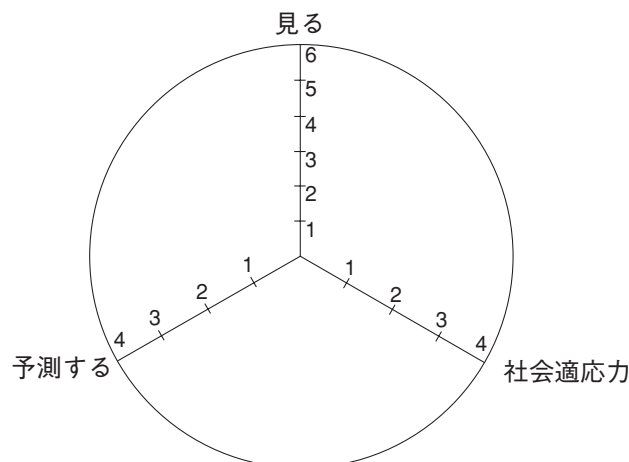
### 問題 2

人通りの多い道（商店街や駅の構内、学校の廊下など）を歩いているとき、あなたは他の歩行者とぶつからないためにどんなことに注意していますか？

自分が日頃からやっていること、心がけていること、そうした方がいいと思うことの番号に○をつけてください。

1. 前や左右をよく見て、人の動きにあわせて歩く
2. うつむいて歩かない
3. わき見しながら歩かない
4. 携帯電話をかけた時、メールを見ながら歩かない
5. 雨の日は傘で周りが見にくくなるので、人にぶつからないよう注意する
6. 歩いているときは友人たちと話に夢中にならない
7. 急に立ち止まると、後ろの人とぶつかることもあるので、急に止まらない
8. 急に進む方向を変えると、他の人にぶつかりやすいので、急に変えない
9. このままだと前から来る人とぶつかると思ったら、あらかじめ避ける
10. 階段などで、前の人たちの歩き方が遅くなったら、自分も速度を落とす
11. 仲間同士、横一列に並んで歩かない
12. 自分が大きな荷物や長い荷物を持っているときは、人にぶつけないよう注意する
13. 高齢者や子供、親子が道をふさぐようにゆっくり歩いていたら、
  - ①すぐに追い越さず、タイミングを見て追い越す
  - ②ちょっとくらいぶつかったり、かすってもいいから追い越す
  - ③声をかけて、相手が気づいてから追い越す
14. 車イスや電動車イスの人が来たら通りやすいように道をあける

テストが終わったら、グラフを作ってみましょう





## ワークシートの利用についての解説

### 問題 1

写真は東京・渋谷駅前のスクランブル交差点。いつも人で溢れている。

たくさんの人が一度に数方向から交差点に入るが、軽く接触することはあっても、強くぶつかることはなく横断している。

ぶつからずに歩けるのは、若い人でも十数年の歩行経験と、その間に学習した歩行スキル、危険認知力や判断力、反応力を持っているからである。

Mikkonenのドライバー行動階層モデル（103ページ参照）は、運転行動について見たものだが、歩行者行動モデルとしても応用できる。

具体的には、

1. 自分に関係する前後左右の人の動き（歩く方向、歩く速度、集団の流れ方、集団の大きさ・密度など）を見て、行動予測、危険予測をする。
2. 自分の動き（方向、速度、人との距離、体の角度など）をコントロールし、人とぶつからずに歩ける空間を見つけ、あるいは空間をつくり、進んでいく。
3. 「前を開けて」「どいてください」のような言葉は発しないが、たがいに、言語以外の手段、速度、歩幅、体の向き、時には目つきや雰囲気などで情報を出し、たがいにそれを認知し、意味を察し、対応する。

情報の出し忘れや見落とし、誤判断をすると、ぶつかるかニアミス（車ならヒヤリハット）が起きる。

そこを歩く目的（遊び、仕事など）や、社会への適応能力なども歩き方に影響を与える。

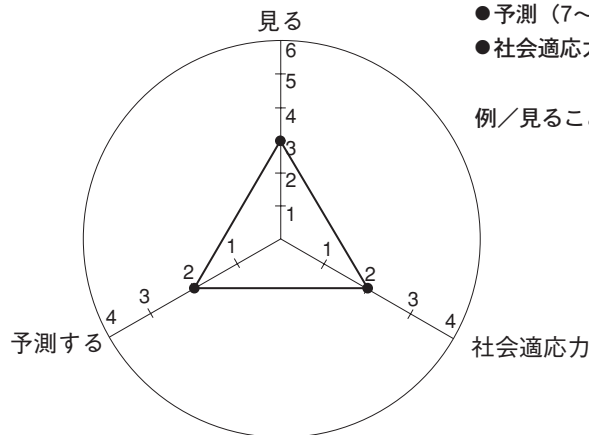
### 問題 2

問題1で考えたことを再確認するためのワークシート。全問題が社会との適応能力と関係があるが、問題の1～6はとくに見ること、7～10は予測、11～14は高齢の歩行者のような交通弱者をじゃまと思うかなど、ダイレクトに社会適応力を扱っている。

結果をグラフに描かせるとよい。自分の足りない点がわかる。

- 見ること（1～6）6点
- 予測（7～10）4点
- 社会適応力（11～14）4点

例／見ること3点、予測2点、社会適応力2点の場合



## 先生のための資料

### コミュニケーションを取り合うことの大切さ

人間社会は、会話や身体表現などを使ってコミュニケーションをとり合うことで円滑さと安全が保たれている。

混んだ電車に乗っていて降りる駅が近づいてきたとき、黙って乗客を押ししたり、かき分けるとトラブルになるが、「降ります」と声を掛けると横に寄ってくれる。

コミュニケーションは自分の意志（情報）の発信と相手の受信表示（情報）で成り立っている。

生徒の1人を話し手、1人を聞き手にして、聞き手が相づちをうつ場合とうたない場合の違いを発表させる実験をしてみるとよい。

うなずかないという約束を、あらかじめ聞き手だけにしておいて実験をすると、それを知らない話し手の方は、「私の話を聞いてないの」と思い始め、「うんとかすんとかいったらどう」と怒り出すかもしれない。

交通の場面でも同じで、歩行者同士、歩行者や自転車利用者と車のドライバー、車のドライバー同士の間での意思の伝達や疎通がなかったり不十分だと、事故になる可能性が高い。

### 四輪車の言葉

四輪車のドライバーが歩行者や自転車乗用者に発信する情報はいくつもある。

- ・ホーンは見通しの悪い場所での警告
- ・ウインカーの点滅は右左折や左右への進路変更の意思表示
- ・走行中の四輪車のハザードランプの点滅は「停止します」または「ありがとう」
- ・ブレーキランプの点灯は減速か停止の警告

を意味している。

### 歩行者や自転車の言葉

歩行者や自転車の側からも出さなければいけない情報がある。

夜間、ドライバーはヘッドライトや道路照明などのあかりで情報を取って走っている。見える範囲は狭くなっている。

歩行者や自転車乗用者が、自分がいることを知らせるには、白っぽい服装、反射材、ライトが役に立つ。右左折や進路変更をするとき、曲がる方向に腕を水平に伸ばすのも、自転車乗用者がしなければならない情報発信である。

### 情報は自分から取る

今まで述べたことは、相手に伝えようと意志的にわかりやすく発信されている情報と、それに基づくコミュニケーションの話である。

しかし、情報はいつも積極的に、わかりやすく出されているとは限らない。相手側にコミュニケーションを取る意志がない場合、たとえば、電車からホームに降りるとき、すぐ前の人が、降りながら携帯電話を開いた場面を想定してみる。

普通、メールも電話も操作中は歩行速度が急に遅くなる。その人にぶつからないためには、情報を自発的に取る必要がある。

[前の人が、周辺に発信している情報]

- 1.携帯電話を開く：メールか電話の操作を始める合図。この情報を見落とすと、急に相手の速度が落ちたときぶつかってしまう。
- 2.その人の特徴（年齢や服装など）：高校生、青年、中高年の男女かなど、予測や注意のための情報。  
その人が次にしようとすることを経験的に判断する（メールか電話か、操作しながらのろろ進む人か、脇に避けてくれる人かなど）。
- 3.その人の次の動き：キーボードなどの操作を始める

要するに、相手の行動を見、相手はどういう人か判断し、次になにをしようか、それはどんな変化を、あなたとその人の間に起こすか、注意して情報を取り続ける必要がある、ということである。

人にぶつからない歩き方のポイントになる情報の出し方、取り方は、自転車や二輪車、四輪車を運転するときの情報処理と基本的には変わらない。

歩行者同士の衝突は、めったに事故にならないが、歩行者と車の衝突は大きな人身事

故になる。

車側に、コミュニケーションを取る意志がない場合を考え、歩行者側は積極的、自発的に情報を取っていく必要がある。

右左折の合図を出さずに曲がってくる四輪車や、左右の安全（歩行者や自転車の存在）を確かめない四輪車がたくさんいることを、知っておく必要がある。

歩行者や自転車乗用者は、進路の前方や横に自分とクロスするかもしれない四輪車がいるときは、四輪車の挙動を情報として取り続けなければならない。

（102ページのグラフ1参照。年間に起きる自動車に関係した約90万件の事故で、わき見運転、安全不確認、動静不注視、漫然運転の法令違反で事故を起こした運転者は60%以上になっている）

## 授業の展開別案

### 体験学習

#### ①座る位置の移動

体験学習「座る位置の移動」は、数グループに分けた生徒たち全員の座る位置を交換させることで、ルールを守ることの必要性を体験させる。

生徒を数グループ（ABC、ABCD）に分ける。グループの構成人数は多い方がいい。指示係と時計計測係を各1名決める。

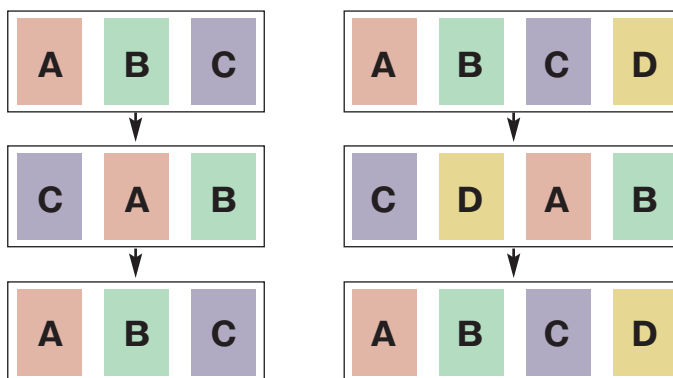
- 1.ABCの順に座る。
- 2.合図があったら、ABCからCABの順に並び替えるように説明する
- 3.合図とともに、各人が自由に移動する。
  - ・ストップウォッチを押す
- 4.全員の着席を確認する。
  - ・ストップウォッチを止める
- 5.合図があったら、CABの配列から元のABC配列に戻るよう説明する。  
移り方のルール、「Cグループは前を通過して元の席に、AとBグループは、後ろを通過して元の席に移る」を説明する。（図参照）
- 6.以下は3.4に同じ。終了後、かかった時間を発表する。

ABCDの4グループの場合の移動ルールは、Aは前、Cは後ろから移動、その後BとDも同様にする。

最後に、かかった時間を発表する。

ある約束を守れば移動が速く、混乱も少なく実施できることを生徒たちは体感できる。

#### □図 移り方のルール



#### ②疑似横断歩道の横断

横断歩道に見立てたラインをガムテープなどで作り、両側にスタート地点をつくる。歩道幅は、混雑状態をつくれるように適宜加減する。長さは、4車線道路程度。

- 1.生徒を2組に分け、それぞれのスタートラインから、線をはみ出させないように一斉に歩かせる。
- 2.ぶつかったり、接触した生徒に手を挙げさせる。
- 3.次は生徒の数名に、顔や視線を横にしたり、うつむいたりして、いっしょに歩かせる。
- 4.スムーズに通過できるアイデアを生徒から出させる。（例：Aグループは横断歩道の左側、Bグループは横断歩道の左側を渡る）
- 5.アイデアのいくつかを採用し、横断させる。

# コミュニケーションの基本は挨拶 日常生活でも路上でも

蓮花一己 帝塚山大学教授

## 車同士もコミュニケーションしている

笑顔は万国共通です。挨拶は国によってさまざまです。笑顔と挨拶で、相手に対して敵意がないことを示しているのです。外国では握手は右手でします。利き腕であり、剣を持つ右手を広げ、何もなかったことを示すのです。日本のお辞儀は自分の首をさらして、どうぞ自由に、と差し出すことですね。挨拶をすることで、その後の人間関係をスムーズにします。

挨拶の基本は相手の目を見ることです。アイコンタクトというのは非常に大切です。交通状況では少し距離があるので、実際にドライバー同士目を合わせてコミュニケーションをとる、ということはなかなかできません。その代わりに車についているツールを使って、コミュニケーションをすることはあります。たとえば、パッシングをして道を譲ってあげたり、クラクションをプツと鳴らして「ありがとう」とお礼をいったり。そういったちょっとした挨拶は日常的に道路でも行われています。

また、通常、生活していて相手に伝えたいことがあると、早めに教えてあげよう、と思います。道路でも同じ。進路変更の方向指示器は早に出すことも大事です。

## 相手の立場を思いやること

「コミュニケーション」というのは非常に重要なもので、たとえば、身近なところでは「うなずき」ということがあります。試しに「うなずかない」と決めて誰かと会話をしてみましょう。この人、本当に私の話を聞いているのか、という気持ちになり、会話がスムーズには成立しないでしょう。そういった簡単な実験を授業で取り入れてみるのもいいかもしれません。表情、身振り手振りといったボディランゲージ、それと言語が結びついて、私たちはコミュニケーションをしている、ということを知ってもらうために。

また、アメリカでよく行われている役割訓練の手法を取り入れるのも「相手の立場で考える」にはよいかもしれません。たとえば医師と患者の関係を考えたときに、患者の心理としては医師を「上」と見ているので、医師の何気ない一言がプレッシャーとなったりすることがあります。そのことについている本人は気づいていない。学校の先生と生徒の関係でもいえることです。

ロールプレイングなどで立場を逆転し、患者、あるいは生徒となって受け止めたときに「なるほど、こんなふうに思うのだな。発言に気をつけよう」と相手の立場に立ってものを考えることができる、そういう訓練です。歩いていると車は邪魔、車に乗っていると歩行者は邪魔と思うことはよくあります。それぞれの立場をシミュレーションすることでわかることもたくさんあると思います。

